

平成30年度 第3回南陽警察署協議会の開催

日 時	平成30年12月7日（金）午後3時から午後5時15分まで
場 所	南陽警察署大会議室
出席者	協議会委員：会長以下6人 警察署：署長以下11人
議 題	1 リスponseタイムの短縮について ※ リスponseタイム…通報から警察官が現場に到着するまでの時間 2 事件現場付近住民の安全確保について 3 捜査協力確保に必要なことについて 4 その他意見要望
視 察	1 事件対応訓練（想定：不審者による刺傷事件） 2 夜光反射材効果体験ボックス

協議会会長挨拶

刺傷事件対応訓練を視察し、訓練とはいえ実際の現場はこうなんだろうなと思うと「怖い」と感じるともに、警察は頼りになると感じた。訓練中もてきぱきとしていて、警察官・警察職員の存在を心強く思った。

署長挨拶、治安情勢の説明

警察署長より、管内の治安情勢（刑法犯の認知・検挙状況、少年補導状況、交通事故発生状況等）の説明を行いました。

【意見の内容】

委員からの意見等	警察署の回答
○ リスponseタイムの短縮について	
南陽市と高畠町にそれぞれパトカーを常時配置し、交差点では立哨活動や児童の登下校時間帯には見まもり活動を行ってほしい。そうすれば、現場急行も速くなるのではないだろうか。	各交番・駐在所に配置されたパトカーで、通常のパトロールや児童の登下校時間帯のパトロールを行っていますので、これからも継続して実施していきます。
駐車違反車両の影響で緊急車両の到着が遅れてしまうおそれがあるので、駐車違反の取締り強化が必要だと思う。 また、パトカーがサイレンを鳴らして近付いているのに、全然気が付かずに運転する車もいるようなので、緊急車両の運転には十分気をつけてほしい。	これからの降雪期は特に、除雪の妨げとなるような違法駐車車両を厳しく取り締まって、安全な交通を確保しなければなりません。 緊急走行で交差点に進入する際、サイレンの音が聞こえずに進んでくる車両もいますので、パトカーも気を付けて運転しなければなりません。パトカーの優先意識を払拭し、事故防止を図っていきます。

○ 事件現場付近住民の安全確保について	
<p>事案発生時に、情報をいかにして早く流して各自治体で対応していくかが重要であると思うので、防災無線の活用をお願いしたい。</p>	<p>管内の南陽市、高島町ともに防災無線が整備されていますので、緊急的に周知が必要な場面で活用していきます。</p> <p>そのほか、うそ電話詐欺の不審電話や不審者情報等は、県警で配信している「やまがた110ネットワーク」により注意喚起しています。</p>
○ 捜査協力確保に必要なことについて	
<ul style="list-style-type: none"> 交番勤務員と地区長、民生児童委員、子ども会会長等との顔合わせを行ってはどうか。互いの顔を知ること、小さなことでも話しやすくなり、信頼も高まると思う。 各自治区での催し物に、若手警察官をなるべく出席させて、地域住民から顔を覚えてもらい、話しやすい関係を作るようにしてはどうか。 	<p>地域の催し物に積極的に出席していき、警察から情報発信するとともに、皆さんからの意見を吸い上げていきたいと思えます。</p>
○ その他意見要望	
<p>10月に行った行方不明者発見訓練について教えてほしい。</p>	<p>10月31日、前回の警察署協議会で要望のありました、「やまがた110ネットワーク」を使った行方不明者発見訓練を行いました。あいにくの雨天でしたが、防犯協会支部長より協力していただき、JR赤湯駅周辺及び高島駅周辺の2か所で同時に実施しました。</p> <p>なお、訓練の広報は「やまがた110ネットワーク」のみで行ったのですが、訓練参加者が少なかったことから、「やまがた110ネットワーク」の登録者拡大を推進していきます。</p>

事件対応訓練視察

「公園をウォーキング中の夫婦が見知らぬ男からナイフで襲われ、男は逃走。」との想定のもと、110番通報から警察官が現場に到着し、犯人を確保するまでの対応訓練を視察しました。視察した委員からは、「警察は安心して頼れる存在であると改めて感じた。若手警察官の動きも機敏で頼もしく思った。」との声が聞かれました。

夜光反射材効果体験ボックス視察

「夜光反射材効果体験ボックス」とは、ボックスの内側に夜光反射材が貼付してあり、点灯スイッチを押下すると夜光反射材が照らされるため、ボックスをのぞき込むと反射材の効果について体験することができるようです。視察した委員からは、「ライトを点灯した時としない時とで、見え方がこれほど違うことに驚いた。」「地区の集まりなどで紹介したい。」との声が聞かれました（写真）。

協議・視察状況

